

“創知協働の森づくり”と“循環利用の森づくり”を進めよう!



#### 総会における会長の挨拶

林業の長い苦しい時代こそ、  
物事を前向きに考えお互いに力を合わせ頑張りましょう!



## INDEX

- 2** 本部情報  
第26回通常総会無事終了
- 4** 県庁だより  
林道の災害復旧について
- 5** 林政ニュース  
全国乾椎茸品評会で2名が農林水産大臣賞を受賞
- 6** 現地レポート  
地球温暖化と森林づくり
- 7** 地域だより  
有害鳥獣被害防止対策補助金交付要綱について
- 8** 森林・林業研究センターだより(No.45)  
菌根菌資材を利用した広葉樹苗木の成長
- 8** 事務局だより

# 本部情報

(社)静岡県山林協会

## 第26回通常総会無事終了

8月29日に、第26回通常総会を静岡市内で開催した。

会員の出席をはじめ国会議員、県議会議員（県自民党林政議員懇話会会員）、国・県の行政機関や関係団体の皆様の多数の御出席を賜り、盛会の内に総会を終えた。

総会は、小嶋善吉会長の挨拶に始まり、来賓祝辞、工事コンクール表彰が行われた。引き続き議事に入り、議長には藤井安彦西伊豆町長が選任された。

### 提出議案

- \*平成18年度事業報告及び収支決算
- \*平成19年度事業計画及び収支予算(案)
- \*平成19年度会費の額
- \*平成19年度借入金最高限度額
- \*平成19年度常勤役員の報酬
- \*役員の改選
- \*付帯決議案

以上の各提出議案について審議し、すべて原案どおり承認された。

### 小嶋善吉会長挨拶

木材の自給率が20%を超えるまで復活したと言うが、全体の需要は増えておらず輸入材が減少した結果と思う。しかし、国産材が見直される一つの良い兆しと感じている。

現実はやがて上手いかわないが、本来の森林は経済目的でしっかりと更新されながら、整備されていくのが一番良い形である。

行政として政治として、森林の問題に取り組む事が今一番求められている

ところである。我が山林協会は自治体と森林関係団体が一緒になった団体です。地球温暖化防止などの公益的な機能も含め森林整備の推進や林道開設、治山事業を県など関係機関にお願いしていきたい。

本県の林業も長い苦しい時代をおっているが、物事を前向きに考えてお互いに力を合わせ頑張っていきたいと思う。

### 来賓祝辞

衆議院議員

片山さつき氏

平成20年度予算編成に向けて林野庁林政部長が昨日説明に来た。

昨年と同じ政策路線であっても、様々な問題解決のためより使いやすい予算となるよう、また、林業関係者や森林所有者の方々に対し政策方向が血の通ったものとして伝わるように考えてほしいと申しあげた。

山林を抱える静岡県の議員として、しっかりバックアップをしていく。

参議院議員

牧野 京夫氏

参議院選挙での皆様の支援に対し厚くお礼を申しあげる。

静岡県は森林保全、木材の生産を目標として森づく

り県民税を創設した。今後、国や県の大事な財産である森林の保全と活用について国政の場でしっかり取り組んでいく。

県建設部長

衛門 久明氏

【知事代理】

貴協会は発足以来森林・林業に関して、地域に根ざした取り組みにより、県土の保全と林業の振興に大きな役割を果たしてきた。

県では本年度、目的指向型の組織再編により、3部に分れ森林・林業を推進しているが、専門性を生かし連携して効果的、効率的に行うよう努めている。

県議会議員

佐野 康輔氏

本県では、県民共有の財産である森林を適切に管理するため、県民全体が連携して森林づくりを進めている。

この取り組みを成功させるには、貴協会の役割が益々重要となっている。県議会として、公益的機能の確保、林業発展のため引き続き支援していく。

林野庁森林整備部

整備課総務課長補佐

高橋 光夫氏

【林野庁長官代理】

「森林・林業基本計画」が昨年9月に閣議決定

した。森林・林業関係情勢の変化に対応するため、緑の社会資本である森林の恩恵を後世の人々が享受できるよう、多様で健全な森林への誘導、安心・安全確保のための治山対策、国産材の利用拡大を軸とした林業・木材産業の再生を推進していくこととしている。

この施策を着実広範に進めるため、「美しい森林づくり」を国民運動とし



て展開していく考えである。

日本治山治水協会  
総務部長

福田 正二氏

【治山治水協会会長代理】

公共事業が厳しくなる中、多発する山地災害による被害を未然に防止するため、森林整備事業の促進と治山・林道の重要性の情報発信を一層行っていかねばならないと考えている。



## 新会長、副会長の選出

新役員が別表のとおり総会で承認された後、定款第13条に基づき理事の互選により会長・副会長の選出と会長による専務理事の指名を下記のとおり行った。引続きよろしくお願いいたします。

会 長：小嶋善吉静岡市長  
副会長：櫻井泰次河津町長  
副会長：杉山嘉英川根本町長  
副会長：榛村純一県森連会長  
専務理事：本間康弘（会長指名）

## 閉会の辞

榛村 純一氏（県森林組合連合会長）

山林協会は6団体が合併し昭和56年に設立され四半世紀たった。これから、市町、企業と個人を含む森林所有者は、木材生産だけでなく森林所有者としての見識を問われる時代が来ると考えられる。山林協会はコーディネーターの中心となる大切な組織であり、皆様の協力をお願いする。

## 工事コンクール受賞者

### 1 治山工事コンクール

(株)齊藤組、(有)古屋組  
(有)永野石材、(株)中山建設  
共和建設(株)

### 2 林道工事コンクール

原田建設(株)、(株)柳澤組  
カネ芳白鳥土建(株)  
(株)道林建設

### 3 治山木材使用工事コンクール

(株)梶山組、(有)丸石建工



▲会長より表彰状授与



▲工事コンクールで表彰された皆さん

## (社)静岡県山林協会役員名簿

(任期：H. 19. 9. 1～H. 21. 8. 31)

職名	支部	氏名	現職名	備考		
理	会 長	中 部	小嶋 善吉	静岡市長	(支部長)	
	副会長	賀 茂	櫻井 泰次	河津町長	(支部長)	
		志太榛原	杉山 嘉英	川根本町長	(支部長)	
	(支部長)	—	榛村 純一	県森連会長		
		賀 茂	藤井 安彦	西伊豆町長		
		〃	相馬 努	伊豆森林組合長		
		〃	小池 政臣	三島市長		
		〃	大城 伸彦	伊豆市長		
	事	(支部長)	〃	深澤 佐五郎	愛鷹山森林組合長	
			富 士	白井 進	芝川町長	
(支部長)		〃	渡井 正孝	富士市森林組合長		
		中 部	坪内 伸浩	富士川町長		
(支部長)		〃	鈴木 英次	静岡市森林組合長		
		志太榛原	松野 輝洋	藤枝市長		
(支部長)		〃	渡辺 恭男	森林組合おおいがわ組合長		
		中 遠	鈴木 望	磐田市長		
		〃	石原 茂雄	御前崎市長		
		〃	村松 藤雄	森町長		
25名 専務理事	(支部長)	西 部	鈴木 康友	浜松市長		
		〃	三上 元	湖西市長		
	〃	青山 喜宥	天竜森林組合長			
	〃	片桐 滋人	龍山町森林組合長			
監 事	—	杉山 陽一	県木連会長			
	—	鈴木 璋一	県林業会議所副会頭			
	—	本間 康弘	山林協会事務局			
3 名	—	大橋 俊二	裾野市長			
	—	又平 琢己	川根町長			
	—	岡本 均	春野森林組合長			

\* 会長、副会長は、支部長を兼任する。但し、全域域から選任された学識経験者等を除く。

\* 支部長は、各支部で選任される。

# 県庁だより

## 林道の災害復旧について

県建設部森林局 森林整備室  
林道スタッフ

林道は木材搬出や間伐等の森林施業のほか、山村地域住民にとってはライフラインとして重要な役割を果たしているため、ひとたび土砂災害などが発生すると生活に大きな影響を与えます。平成18年・19年の事例を交えながら国庫補助による災害復旧の状況を県森林整備室より紹介していただきます。

### はじめに

「平成18年4月11日、大雨により浜松市水窪町の林道大野中根山線で土砂崩れが発生し、沿線の集落の住民21世帯39人が孤立」というニュースが新聞やテレビをにぎわしたのは記憶に新しいところです。

また今年の6月10日には、川根本町の林道蕎麦粒線で土砂崩れがあり、登山ツアー客12人とマイクロバスの運転手等合計15人が一晩山小屋に避難するという事態が発生し、同じく新聞やテレビで報道されました。

林道は木材の搬出や間伐等の森林施業のための道路であることはもちろんですが、この事例のように、登山や観光のため通行する地元以外の人の利用も増えています。

また、山村地域に住む人たちにとっての林道は、ライフラインとして重要な役割を担っており、集落の唯一の生活道路となっている林道は県内に53路線あり、影響を受ける人家は250戸にのぼります。

### 林道の災害復旧事業

このようなことから、林道の管理者である市や町においては、法面の改良や路面の舗装などの工事のほか、側溝の清掃や崩土の除去などの維持

管理を通じて、安心して通行できる林道の整備に努めていただいているところです。

しかしながら、豪雨等の異常な気象による法面の崩壊や路肩の決壊などの災害は避けることの出来ないものであり、万一災害が発生した場合は速やかに復旧を図ることとしています。

一定の規模以上の豪雨等により林道が被災した場合は、国庫補助事業による災害復旧が出来ることとなっており、国の補助を受けて、林道管理者である市や町等が復旧事業を実施します。

### 国庫補助による災害復旧

国庫補助による林道の災害復旧事業は、「農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法律(以下暫定法)」に基づき実施されます。

暫定法で規定する災害とは、「暴風、こう水、高潮、地震、その他の異状な天然現象により生じた災害をいう」と規定されており、この中で降雨による災害については、最大24時間雨量が80mm以上の場合とされています。また、80mmに満たなくても時間雨量が20mm以上の場合など対象となる場合があります。

### (1) 平成18年災害の状況

平成18年は4月11日～12日の豪雨災から9月18日の台風13号災まで、5回の災害に見舞われ、56箇所、被害総額約2億1千万円の被害が発生しました。

このうち、国庫補助事業の対象箇所として国に提案した箇所は12箇所、復旧見込額は約1億6千3百万円となりました。この中には、前述の大野中根山線も含まれており、平成18年12月20日に復旧工事が完成し



▲大野中根山線被災時



▲同上復旧完了

### 平成18年災害の状況

災害名	主な発生地域	箇所数	事業費(千円)
4月11日～12日豪雨	旧水窪町、藤枝市	3	37,889
5月19日～20日豪雨	旧水窪町	3	23,956
6月15日～16日梅雨前線豪雨	旧天竜市、春野町、龍山村	4	69,738
8月8日～9日台風7号	旧龍山村	1	30,484
9月18日台風13号	富士宮市	1	810
合計		12	162,877

ました。12箇所の内容ですが、法面の崩壊が最も多く9箇所、路肩決壊が2箇所、法面崩壊と路肩決壊が1箇所となっています。

国庫補助事業による復旧箇所は、一部路線が19年度に繰越しましたが、7月末現在全て復旧が完了しており、その他の箇所も市町単独事業等により復旧しています。

## (2) 平成19年災害の状況

平成19年は7月15日から16日にかけて台風4号が襲来し、本県には上陸しなかったものの、梅雨前線を刺激し、県内全域に大きな被害を及ぼしました。7月末現在、56箇所、4億2千300万円の被害となっており、このうち23箇所4億1千300万円を国庫補助による災害復旧の対象として申請する予定で、これはすでに前年の年間復旧事業費を上回っています。

災害の内容としては、路肩決壊13箇所、法面崩壊が7箇所、法面崩壊と路肩決壊が3箇所と、路肩決壊の多いことが特徴です。



▲平成19年台風4号災・白倉山線(旧水窪町)

9月下旬から林野庁と財務省による査定を受け、事業費が決定次第、復旧工事に取り掛かることとしています。

## その他の災害復旧

雨量が少ない、災害の規模が小さい等の理由により国庫補助事業の基準に該当しない場合は、その規模や緊急度に応じ、県単独林道事業や市町単独事業により復旧を図ります。

前述の蕎麦粒線の場合も、最大24時間雨量が39mm、最大時間雨量も7mmと国庫補助事業の基準に達しなかったため、県単独の改良事業により復旧を図ることとなりました。

## おわりに

林道が被災した場合速やかに復旧することはもちろんですが、常に災害による被害を最小限にとどめるよう予防に努めることも重要です。そのためには、側溝、横断溝等の排水施設の管理など、通常の維持管理をしっかり行うことが重要であり、法面の改良や路面の舗装も災害を未然に防ぐ手段として有効です。

また、林道を開設する時点で、現地の地質にあった適切な法面保護工の選択や、水を集中させない排水計画など、災害を受けにくい線形や構造とすることも重要です。

今後も市や町と連携して、「災害に強い」林道整備を進めていきます。

# 林政 ニュース

## 全国乾椎茸品評会で2名が農林水産大臣賞を受賞

— 2007年全国乾しいたけ振興大会 —

「2007年全国しいたけ振興大会」が、去る7月7日に大分県豊後大野市において、多くの来賓をはじめ、全国各地から生産者のほか、乾しいたけ産業に携わる関係者多数の出席のもと盛大に開催されました。大会においては、6月28日に静岡県の日椎連乾椎茸流通センターで行われた「第55回全国乾椎茸品評会」で決定した、農林水産大臣賞、林野庁長官賞、団体賞の表彰式が併せて行われました。

「第55回全国乾椎茸品評会」には、全国からあわせて433点の出品があり、静岡県からは、天白冬菇の部の大川勘太郎さん(伊豆市)と茶花冬菇の部の高橋林作さん(松崎町)の2名が農林水産大臣賞に、天白冬菇の部の杉本勝彦さん(伊豆市)が林野庁長官賞に選ばれ、表彰を受けました。



▲農林水産大臣賞を受賞した大川勘太郎さん(向かって1番左)と高橋林作さん(左から2番目)

原木しいたけ生産量の減少や後継者不足を心配する中での、農林水産大臣賞のダブル受賞と林野庁長官賞の受賞は大変名誉なことであり、また静岡県からこのほかにも多くの賞を受賞しているため、県内乾しいたけの生産者をはじめ、椎茸関係者にとって、今後の椎茸産業、生産の振興など士気の高揚につながることを期待されます。

台風4号災の状況(国庫補助申請予定箇所)

市 町	路線名	被害額(千円)	24時間雨量	時間雨量
松崎町	湯沢線	2,161	160mm	16mm
伊豆の国市	城山線	7,933	242mm	27mm
静岡市	樫ノ木峠線ほか4	56,066	390mm	58mm
藤枝市	高尾線	21,770	263mm	25mm
川根町	八高山線	17,000	320mm	43mm
川根本町	家山線ほか1	58,744	299mm	34mm
旧天竜市	安蔵線	18,226	319mm	35mm
旧龍山村	尾曲線	15,394	250mm	27mm
旧佐久間町	地八吉沢線	23,831	313mm	32mm
旧水窪町	大寄線ほか5	191,931	327mm	40mm
計	20路線23箇所	413,056		

# 現地レポート

## 地球温暖化と森林づくり

川根本町 総合支所  
事業課 北原 徳博

全世界で危惧されている地球温暖化。環境汚染などにより空気中の二酸化炭素濃度が濃くなり気温が上昇するといわれ、それを抑えるのに森林の役割が注目されています。川根本町より今後の森林づくりについて語っていただきます。

### 地球温暖化と森林について

地球環境を大きく変えてしまう恐れがある温暖化。温室効果ガスの代表である大気中の二酸化炭素濃度が濃くなっているのが原因と言われます。その二酸化炭素を吸収・貯蔵してくれる森林と木材の役割がいま注目されています。

地球温暖化の資料によると温室効果ガスには、二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、対流圏オゾン、ハイドロフルオロカーボンなどがあります。このうち、大気中の濃度が急激に上昇し、温暖化に最も影響するとされるのが二酸化炭素といわれています。その二酸化炭素を固定・貯蔵するタンクとして、代替エネルギーとしての森林の役割が重要視されはじめています。温暖化を抑える森林管理・木材利用の方法をまとめてみました。

#### 1. 森林消失を止める

農耕、放牧、乱伐、火災などによる熱帯地域の森林減少を抑え、森林消失による二酸化炭素の発生増加をくい止めます。

#### 2. 森林面積を増やす

失われた森林を再生させて森林面積を増やし、二酸化炭素の固定・貯蔵庫を増やします。

#### 3. 森林の炭素蓄積量を増やす

成熟していない二次林（自然林などが失われた跡地に再生した森）や

人工林は、できるだけ成熟させることにより炭素蓄積量が増えます。つるなど成育を阻害するものを取り除いてやると炭素蓄積量を高めることができます。

#### 4. 効率のよい木材生産・木材利用

ムダのない、効率のよい木材生産を続け、つくった木材製品を長く利用します。このことで、木材に貯められている炭素をそのまま貯蔵しておくことができます。例えば、適切な時期に伐採し、住宅や家具用材として長く利用していくという方法です。木材は二酸化炭素の缶詰めです。長く使うことで二酸化炭素を貯蔵できます。また、木材は、鉄・アルミなどと比べ、製造に使うエネルギーが少なくてすみます。

#### 5. 石油・石炭の代替エネルギーとして木材を利用する

森（樹木のからだ全部）は、エネルギー源です。木材、樹皮、廃材、黒液（パルプ製造時に出る廃液）を燃やしたり、ガスにして熱エネルギーに変えることができます。

森のエネルギーは再生する資源です。上手に利用すれば化石燃料の消費を減らすことができます。

### 川根本町の森林づくり

森は、二酸化炭素を吸収してくれる大事な存在です。その働きを高めてい

くには、町としてどのような工夫をしていけばいいのか考えてみました。

本町の総面積は49,672haで、そのうち森林面積は46,576haで、総面積の94%を占めています。私有林面積は19,701haで、そのうちスギ、ヒノキを主体とした人工林の面積は14,095haであり人工林率72%で県平均を上回っています。その中で7～10齢級の林分が8,214haで58%と多く占めており、今後、計画的な伐採及び間伐を適正に実施していくことが重要だと思えます。



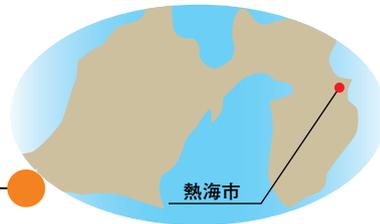
▲手入れがなされている人工林

天然林については、自然のしくみで、人為的エネルギーやコストをかけることなく炭素の貯蔵量を増やします。枯死木や倒木は徐々に分解して二酸化炭素を放出しますが、それだけ長い間炭素を体に貯蔵し続けると見なせません。天然林でも、何かの原因で破壊され、若い樹木への世代交代（更新）が進まないときには、人手による手助けを行なうことが必要と思われる。

人工林率72%の木材生産を目的とする人工林は、二酸化炭素の吸収・固定源として大変期待されています。というのは、若い森林は、たくさんの二酸化炭素を吸収して成長するからです。成長の低下した老齢木は二酸化炭素吸収速度が小さく、蓄積量があまり増えません。このため、成長ピークを過ぎた森林を伐採し、木材として利用し、再び植林することで、大気中の二酸化炭素を積極的に吸収・固定できます。

二酸化炭素対策として何も特別なことをするわけではありません。放置することなく若い人工林をきちんと手入れし、育てていくという、林業の基本が教えてくれることだと思えました。

## 地域だより

有害鳥獣被害防止対策補助金  
交付要綱について

熱海市 みどり農水課  
農林水産振興室 副室長 村田 猛

して、税金（別荘等所有税）を納めているのに、市は何にもしてくれないとクレームがでています。



▲サルのは掛け用檻

熱海市が取り組んでいるサルやイノシシの有害鳥獣被害防止対策について熱海市みどり農水課村田猛さんから紹介していただきます。

## 1. はじめに

はじめにこの文章の寄稿を頼まれたとき、書けないと思い、何度も断ってきましたが、さて、書こうと思ったとき、何が書けるのか疑問でした。しかし、前回の掲載文「支部だより」には、平成16年に開催された「熱海花の博覧会」に紹介文章が載り、平成15年12月から16年5月まで「熱海花の博覧会」の仕事に従事した当事者である私にとって文章を懐かしく読みました。

## 2. 熱海の位置及び現状

熱海市は静岡県の東端、伊豆半島の東側の付け根に位置し、西側の標高800~500メートルの山に接し、三方山に囲まれ、東向きの傾斜地になって相模湾に接しています。また、昔から温暖で豊富な温泉で有名な土地であります。

温泉の恩恵を受け熱海市の産業の中心は、観光・サービス業であることは皆さんがよく知っているところであり、その他主要な産業もありません。まして、農業や漁業に関しては年々高齢化し後継者不足になっており衰退しています。

若者は就職先がなく都会に出て行くため、老人が取り残されるような状態です。熱海市はセカンドライフ（団塊の世代）を熱海へとニューライ

フ支援室を立ち上げ、積極的に熱海を売り込み、熱海への定住化を推進しています。



▲熱海市街地風景

## 3. 森からの「恵」

熱海の森からの「恵」と言えば、イノシシとサル。本当に自然豊か？有害鳥獣の対応に追われているのが、みどり農水課です。

サルは市内各所に出没し、家の中に入り込む事態まで発生しています。また、人的被害（噛み付き）も出ています。平成18年度には、イノシシを112頭捕獲し駆除しました。それでも、イノシシの被害は減らず、頭を抱えている状態です。

熱海には別荘族も多く別荘等所有税を徴収し熱海市の財源の一つになっています。都会からの生活を切り上げ、別荘で家庭菜園を始め、丹精込めて育てた野菜をイノシシやサルに捕られてしまうという問題も発生し、クレームをみどり農水課に。ま

## 4. イノシシ対策

熱海市の対策に有害鳥獣被害防止対策補助金交付という形で、イノシシの被害を防止するための柵や電気柵の設置に要する材料費の購入の支援をしてきましたが、条件が農業者と限定されたため利用者も多くはありませんでした。平成19年度4月より農業者という条件をはずし一般の市民までに枠を拡大しました。市街地の住宅地の裏山までイノシシが増え、被害が広がっていることを示しています。これは、熱海市特有の地形が問題なのか、イノシシの数が増えすぎなのかが問題であります。

特に、別荘は山の斜面や高台のところが多く、そこにイノシシが出没するとガス管や水道管の回りを掘起こされ管がむき出しにされてしまいます。また、芝生を張っても掘起こしされ、崖地等は岩や石がむき出しになり道路へ落石し通行の邪魔になるということがあります。

それぞれの被害を防ぐために、補助金を出して自己防衛するための補助金を出すようにしました。

## 5. 最後に

今年、「市民まで」と枠を拡大しましたが、その成果がでるのはこの要綱が市民の中に浸透するかに掛かっていると思います。この要綱だけでは、イノシシの被害を防止するためには十分だとは思いませんが、少しずつ進めていかなければならないと思っています。

# 森林・林業 研究センターだより

No.45

## 菌根菌資材を利用した 広葉樹苗木の成長

広葉樹遺伝子プロジェクトスタッフ  
袴田 哲司

広葉樹植栽が各地で行われています。苗木の活着率向上や成長促進のために使用される菌根菌資材の効果について報告していただきます。

### 広葉樹の植栽

荒廃森林の整備、生物多様性の維持、彩り豊かな景観形成などを目的に、全国各地で広葉樹の植栽が行われています。静岡県では、平成17年度には公共造林として25haが植栽されました。

今後も、県で推進する各種の事業において、広葉樹植栽は積極的に行われると予想されます。しかし、活着や成長の不良、病虫害の発生などが起こり、思ったほどの造林成績が得られない例も見られます。

### 菌根菌資材の利用

菌根菌は、生きた植物の根に感染し共生関係を築く糸状菌で、菌糸が根の表面を取り巻くように共生する「外生菌根菌」と根の内部に入り込む「内生菌根菌」に大別されます。いずれも、植物から糖分などを享受する一方、植物に土壌中の無機成分や水分を供給したり、土壌病原菌から根系を守る働きをしたりすることが知られています。

現在、植物の成長を助ける農業用の資材として内生菌根菌の一つである「Glomus属菌」や「Gigaspora属菌」を含む菌根菌資材が市販されていま

す。しかし、これらについては、農作物や一部の樹種で効果が検証されているものの、その事例が多いとはいえません。そこで、数種の広葉樹を対象樹種とし、市販の菌根菌資材が、成長にどのように影響するかを調査しました。

### 菌根菌資材の効果

サクラバハノキ、コナラ、アキニレ、カマツカ、イロハモミジ、イタヤカエデ、ウリハダカエデの稚苗を準備し、これらに、市販の菌根菌資材A、資材B、資材Cを施用しました。5月から7月にかけて、ビニールポットに赤玉土、パーミキュライト、ピートモスを混合した用土を入れ、稚苗の根の周りに菌根菌資材、または乾熱滅菌処理をした菌根菌資材をふりかけて植栽しました。滅菌処理した理由は、資材に含まれる各種の成分ではなく、菌類そのものが樹木の成長に与える影響を調査するためです。植栽の約2週間後に緩効性肥料を施肥し、8月及び11月に苗高の測定を行いました。

これらの調査の結果、アキニレでは使用したすべての資材で成長促進効果が認められ、特に非滅菌の資材Bでは、

されました。乾椎茸の生産・流通県の老舗として嬉しいことです。

乞う、益々のご活躍を！

★県主催の静岡県森林・林業技術研究発表会が開催され、後援団体である本協会の会員が6件の発表を行いました。詳しくは次号で紹介予定（本間）

対照区と比べて8月時点、11月時点ともに統計的に1%水準の有意差が認められました。カマツカでも、8月時点では非滅菌の資材Bの効果が認められ、対照区との比較で5%の有意差がありました。サクラバハノキ、コナラ、イロハモミジ、イタヤカエデ、ウリハダカエデでは施用した資材に有意な効果が認められませんでした。

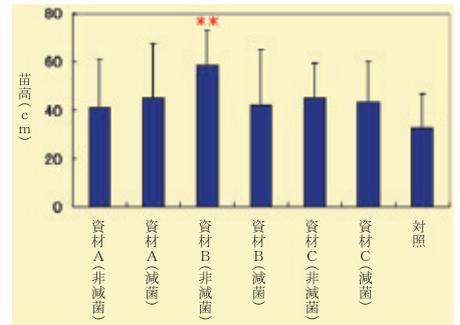


図-1 菌根菌資材を施用したアキニレの苗高（11月時点）  
\* \* 分散分析により、対照区と比較して1%水準で有意差あり

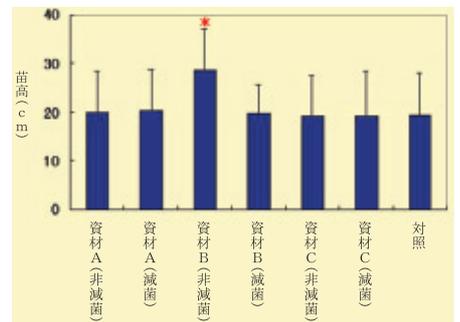


図-2 菌根菌資材を施用したカマツカの苗高（8月時点）  
\* 分散分析により、対照区と比較して5%水準で有意差あり

これらの結果から、資材Bではアキニレ、カマツカに成長促進効果が認められることが明らかとなりました。また、滅菌した資材よりも非滅菌の資材を施用した場合に成長が促進されたことから、菌根菌資材に含まれる各種成分ではなく、菌根菌そのものが成長促進に作用したことが示唆されました。

今後は、対象樹種を増やし、菌根の形成状況や根系の発達程度についても調査を進めていきたいと考えています。

### 事務局だより

- ★熱帯夜の続く8月も終わり、ちよっぴり秋の気配が感じられ、天高く馬肥える季節がまもなくやって来ます。
- ★全国乾椎茸品評会においてお二人が大臣賞を受賞し、美味しく素晴らしい本県産の乾椎茸が、今年も全国に発信

社団法人 静岡県山林協会  
静岡市葵区追手町9-6西館9F  
「森と人」 TEL: 054-255-4488  
編集・発行 FAX: 054-255-4489  
E-mail: sanrinky-moritohito@gaea.ocn.ne.jp



この用紙は、間伐材を原料としております。